

## 5. 魚病対策事業

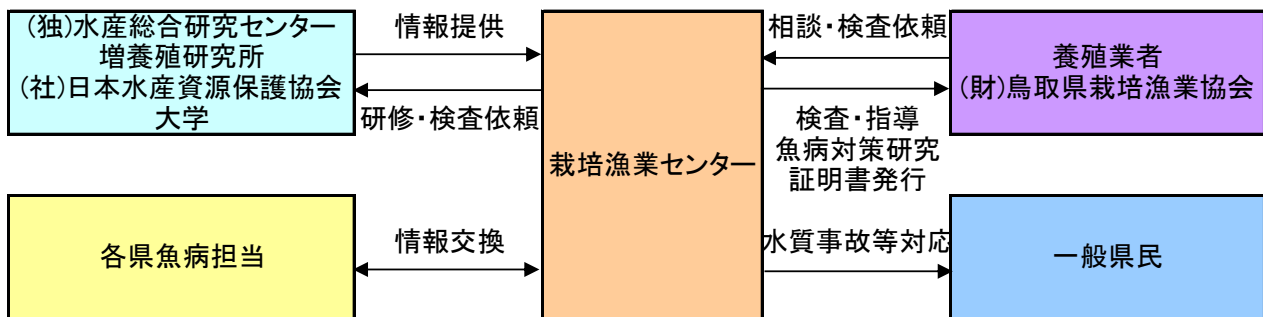
担 当：水本泰・松田成史（生産技術室）

実施期間：平成 19 年度～（平成 24 年度予算額：1,661 千円）

目的・意義・目標設定：

- ①持続的養殖生産確保法，薬事法，食品衛生法などにに基づき検査等行う。
- ②巡回指導や魚病検査を行い，魚病被害を低減させる。
- ③疾病の検査証明書を発行する。
- ④水産物の生産過程で問題となっている疾病の対策を行う

事業展開フロー



取り組みの成果

### 1) 目的

養殖場の巡回指導，魚病検査を行い，魚病の被害を防ぐ。また，天然魚についても必要に応じて検査を行い，被害の蔓延防止対策の基礎とする。養殖生産魚について，薬剤残留検査を行い，食の安全を確保する。種苗生産期の疾病として問題となっているものの解決策を検討する。

### 2) 方法

- ①巡回指導・魚病指導：県内養殖業者の巡回（生産状況，現場確認），相談や講習会を通じて，疾病発生に関する情報提供，注意喚起を行い，適正なワクチン，薬剤使用を指導する。
- ②魚病検査：養殖場や天然域で斃死あるいは衰弱した水産生物の疾病について検査を行い，対処方法を指導する。
- ③検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行：鳥取県栽培漁業センター手数料徴収条例に従い，活魚取引上必要な検査証明書を発行する。また，水産用ワクチンの投与を希望する養殖場で事前調査を行い，使用指導書を発行する。
- ④薬剤残留検査：薬剤を使用した養殖業者の出荷予定魚に使用薬剤が残留していないか検査する。

### 3) 結果

#### ①巡回指導・魚病指導

平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月末日までの魚種別巡回指導件数を図 1 に，指導項目別・魚種別検査件数を図 2 に示した。巡回指導は延べ 42 件行った。今年度はアユカケの回数が減少したためホンモロコが最も多く 18 件となった。また平成 24 年 7 月 10 日に行われたホンモロコ生産組合総会において 19 件の業者に対して魚病講習を行った。

## II. H24 成果 5 魚病対策事業

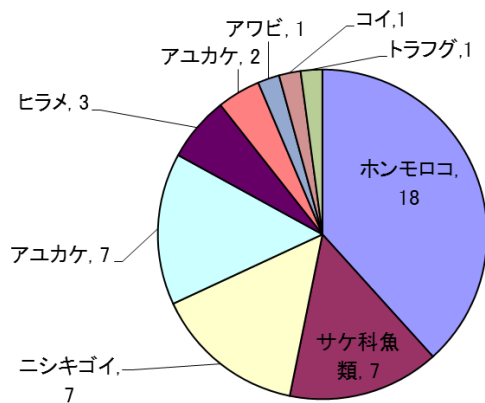


図1 平成24年度魚種別延べ巡回指導件数

### ②魚病検査

表1に平成24年度の魚病診断状況を示した。アユ、フナ、コノシロ、クロアワビなど天然域からの検体の検査が多かった。また特定疾病のコイヘルペスウイルス病も発生も認められた。

表2 平成24年度魚病診断状況

内水面			H24										H25			合計
魚種	病名	区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ヤマメ	冷水病	養殖	1												1	
アユ	冷水病	天然河川		1											1	
錦鯉	コイヘルペスウイルス	天然河川							1						1	
マゴイ	コイヘルペスウイルス	民家					2								2	
アユカケ	銅ウールによる中毒	養殖			1										1	
フナ	運動性エロモナス	天然池													0	
フナ	不明	民家池	1												1	
フナ	不明(大量斃死)	天然池		1			1								2	
フナ	運動性エロモナス+鰓疾病	天然池							1						1	
ギンザケ	酸欠?(圧飼いによる影響)	養殖				1									1	
コノシロ	低水温	天然池										2			2	

海面			H24										H25			合計
魚種	病名	区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ヒラメ	スクーチカ	飼育試験		1											1	
マサバ	ビブリオ属細菌(P.damselae?)	飼育試験				1									1	
アユカケ	スクーチカ	飼育試験		1											1	
ヒラメ	トリコジナ	養殖										1			1	
クロアワビ	不明(やせ症状)	天然											1		1	

### ③検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行

コイヘルペスウイルス病について1件検査証明書を発行した。ワクチンについては申請が無かったため、ワクチンの使用指導書の発行は無かった。

### ④薬剤残留検査

薬剤の使用実績調査から、該当するものが無かったため、実施していない。

## 4) 考察(成果)

平成23年度には発生の見られなかったコイヘルペスウイルス病が再び発生している。県内でも未発だった中部地域の発生であり、感染地域の拡大が懸念される。

### 5) 残された問題点及び課題

天然域で発生する魚病の対応が多いが、検体の鮮度が悪かったり、魚病以外の死因の可能性が高かったりと、原因を特定することが難しい。特にフナの大量斃死は毎年発生しており、原因究明を求められるが、前述の理由から十分に応えることができない。